

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0170100960), 法人名 (株式会社 進幸), 事業所名 (グループホーム ピアハウスPOP), 所在地 (札幌市中央区北4条西16丁目1-3 幌西ビル2階), 自己評価作成日 (令和2年9月10日), 評価結果市町村受理日 (令和2年11月16日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・当事業所は食べる楽しみを重要視しており、毎回献立を決めずに当日の気温や入居様の希望を取り入れて好き嫌いにも対応できるように食材が豊富にストックされていて柔軟に対応しています。
・食事を提供するスタッフは介護やヘルパー歴が長い人が多く、全員が家庭料理に精通し個別ケアにも柔軟に対応しています。
・スタッフの平均年齢が60歳代で、若い人にはない細やかな気配りができていると思います。
・施設は同じフロアに共同住宅と日中はデイサービスなどが併設しており、常に人の出入りが多く、開放的なのが特徴です。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action\_kouhyou\_detail\_022\_kihon=true&JigyosyoCd=0170100960-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和2年10月1日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- 1. 経営の基本事項：交通至便な住環境にあって、介護設備の整備と利便性がよい。職員の継続的研修と介護姿勢への研鑽に努め、事業理念に準じて業務に専念している。
2. 職員の介護等姿勢・態度：職員は利用者本位の介護姿勢に徹し、利用者の声に耳を傾け、受容的で丁寧な対応に努めている。
3. 家族等の好感度等：日常生活状況を家族への月例報告に努めるとともに、来訪時での家族等の意向をよく聴き、運営に活かしている。
4. 運営推進会議開催状況：会議は定例に開催し、家族・地域代表・包括支援センターの参加を得て、運営状況の主催を説明し、参加者の意向を運営に反映するよう努めている。
5. 地域機関・組織との連携：ビル内に併設のデイサービスがあり、業務連携とともに、ビル居住組織や近隣自治組織との理解を図っている。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff performance.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念をフロアーの中心部分に掲示、月1度のスタッフ会議に復唱して、理念の共有に務めている。	併設事業のデイサービス・共同住宅と共に、高齢者と障がいがある人々との隔てない交流と支援を目的に、其々が生きがいある日々を送れるよう、職員が事業方針を共有して支援に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会の行事にできるだけ参加している。新年会や夏祭りなどを通じて交流を行っている。	都心の交通・生活の至便な地域に在って、地域自治組織との連携に留意している。利用者が地域開催の行事や祭り等への参加して楽しめる機会を大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族に対して認知症の理解や支援の方法をアドバイスを行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を設けています。地域包括や町内会の役員、住民代表や家族、防災部長など参加者の意見を取り入れ活用している。	定例に会議を開催して、家族、町内会役員、防災関係者、包括支援センター等の参加協力を得て、日常の運営状況を報告し、参会者の意向を運営に反映するよう努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入居者の中に生活保護受給者が多くいますので、必要なときには区の担当者と連絡を取っていますが、市の担当者には連絡は取れていませんが、地域包括支援センターの職員には運営推進会議で連絡を取り合うようにしています。	関係機関の窓口と共に、利用者の生活状況等に関連する行政窓口との連携・情報交換、包括支援センターの専門的指導等を運営に活かすよう努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止の為に委員会を2ヶ月に1回看護師を交えて行っています。又外部の研修にも積極的に参加しています。玄関の施錠をしておらず、無断外出をされる方のケアも積極的にを行い日に同行しています。	身体拘束委員会は定例に開催している。会議では日常支援活動における利用者個々への支援の在り方を振り返るなど、利用者の生活を損ねることなく、職員の資質向上に活かすよう努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社協の虐待防止研修にスタッフの代表が参加して内部学習としてスタッフ会議で共有しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ってはなかったが制度を使っている人もいますので今後研修で都営入れて行きたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結前に利用者本人に施設に来て頂いて雰囲気を見て頂き納得してもらって入居して頂いています。家族には重要事項説明書を用いて説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族が意見、要望を管理者や外部へ表せる機会を設け、それらを運営に生かしている。	家族の来訪時には、利用者の日常生活状況を説明して、意向の傾聴に努めて反映するとともに、月例の報告書をお送りして、運営の内容をお知らせしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月スタッフ会議を行い職員からの意見提案を聞く機会を設けて、随時必要な時に個別面談を行っている。	定例の職員会議は職員の専門的職位の意向を相互に確認し合うよう努めて、組織的合意を図っている。また、個々の意向を受け止める個別面談を大切にしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の生活環境を考慮して、勤務時間を調整したり、労働環境を整備している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に積極的に参加して頂いています。又介護福祉士取得のための取り組みも行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の介護施設と積極的に交流を行い。行事や医療連携研修の案内をして相互の活動を通じてネットワーク作りを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談や本人の普段の生活の情報や要望を聞いて、本人が望む環境を作って安心して頂いて暮らして行けるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居初期には利用者の施設でも生活情報をお知らせして、不安なこと要望などを聴きながら良い関係ができるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人を中心に時間が許す限り、寄り添って必要な支援は何かをスタッフと情報を共有することで支援を決定している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフの多くが家族と年齢が近いので、家族として接して、「ありがとう」をスタッフが多く言える関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎日同じ時間に電話をしてくださる家族のために取次を行ったり、家族に逢いに行くのに同行させて頂いて家族との交流を支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者本人が毎日通っていた喫茶店に同行したり、10年来の友人との交流などを支援している。	利用者の日常での好みの喫茶店や理美容の活用を支援するとともに、友人との交流、家族来訪時の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが入居者間で起床やおやつ時間の声掛けをお願いしたりして支えあえるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去になった利用者のご家族様が運営推進として参加していただいて相談に乗って頂いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話の中から本人の希望や思いなどを聞き出して、スタッフとの話し合いで実現できるように取り組んでいる。	平常の生活状況に注目するとともに、言葉や習慣等を観察し、思いを汲み取って、それらの意向を職員相互が共有し、支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から入居前までの暮らしぶりの情報の把握に努めていて必要な情報はすぐにスタッフと共有するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の様子を記録に残して現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネジャーが介護業務も兼任しているので日頃から入居者と接していて、新たに発生する課題にいち早く取り組みプランに生かしています。又毎月のケア会議で常にモニタリングをしています。	ケアマネジャーを中心に、定例会議でのカンファレンス記録等や個別データを基に、個々の課題につき職員相互の意向を計画に反映できるように定例計画・変更計画を作成している。なお、家族の意向も反映に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ケアの記録を毎日記入して職員間の情報の共有を行っています。それを参考に細かい聞き取りを行ってケアプランに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の意向は聞くことは出来ていますが、なかなか家族様とのコミュニケーションが取れなくて苦労しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会や入居者の昔からの友人やスタッフの友人などが時々ボランティアで話し相手になって下さっています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療を利用し、緊急時に相談したり支持を仰いでいる。又長年通いなれた通院先に付添い適切な医療を受けられるように支援している。	個々のかかりつけ医がある場合は対応に努めているが、協力病院との定例の訪問診療を中心に健康管理等を努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問してくる看護師以外でも法人の訪問看護師が併設するデイサービスに常に勤務しているので相談や必要な看護ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には必ず付添い情報提供を行い本人や家族が安心して治療できるように協力し、入院中にも見舞いや担当看護師から情報を得るようにしています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期については本人とは話し合いはできませんが、家族とは重度化した時にどうするかは話し合っています。職員が異動などで新しくなっているので近いうちに看取りについて研修ができていない。	終末期・重度化対応については指針に応じて、利用者の心身の状況に応じて、医療機関と家族と協議して対応に努めている。	今後の看取り対応については高齢化が進むことなどから指針の作成等、入所時の事前対応の準備が必要になることが予想されるので検討を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命訓練やAEDを設置しているので年に1回は訓練を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練や災害時の対策など地域の防災部長を迎えて訓練や勉強会に参加して頂いている。	消防機関の協力を得て、地域の防災組織とも連携して、年2回の想定訓練を実施している。備蓄等にも考慮がなされている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の気持ちに沿って、日常生活を支援していて、入居者の自尊心やプライドを傷つけないようにしている。	職員は利用者一人ひとりの想いや意向を確かに受け止め、応えるよう努めて、個々の誇りや個性を損なうことのないように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	細かい事でも選択できるように声掛けしたり、目で見て選んでもらって自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴・起床時間・就寝時間などある程度の決まりはありますが、なるべく本人の体調や気分などを希望を聞いて支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時の化粧や服装など個人の好みを大切にしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の献立を決めておらずその時の天気や気温や手に入った季節の食材を利用して入居者と相談して献立を決めて調理をして食事を楽しくするようにしています。	食事は日常生活の最も大切なこととして受け止めている。個々の嗜好、季節感ある食材選択等に留意した献立づくりに努めて、楽しい食事の時としている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分の摂取量を記録していて確認している一方その人に応じた摂取法などを工夫している。栄養ゼリーやお粥・ミキサー食など。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は出来る限り口腔ケアを行っている。自分で行う習慣の人は訪問歯科や近隣の歯科へ通って口腔ケアを定期的に受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツ使用者でも極カトイレで排泄できるように排泄チェック表で排泄パターンを共有し立てる方はトイレに連れて行くようにしています。	職員は排泄の自立支援を基本に、個々の排泄パターンの共有などでトイレでの排泄が出来るよう努めている。個々の日常の行動観察、排泄チェック表作成の努力を活かしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	週に数回は乳製品やヨーグルトなどをメニューに取り入れて、そして食物繊維を多く含む食材を常に意識して摂って頂いています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	最低週に2回は入れるようにしていますが、本人希望や体調でずれることもあります。基本的には、時間は本人が入りたい時間を設定したりしています。	週2回以上の入浴対応に努めている。入浴には個々の心身の状況や気分に応じて、楽しんで入浴出来るよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣や体調なども考慮して、日中でも静養する時間を設けていて、		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員一人一人が入居者の服用している薬を把握しており、変更になった場合にはラインの連絡網でいち早く全員に情報がいきわたるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別に対応しており、家事への参加はもちろんのこと、そろばんの練習相手、カルタランプ、近くのコンビニへの買い物等、散歩等の支援を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くのコンビニに趣味の雑誌を買いに出かけたり、お盆などにお墓参りに出かけたり、歯科受診などへ同行している。	日常の軽い散歩や近隣のお店に出向くなど、季節の風を感じる支援に努めている。また、家族の協力を得ながら、墓参り等を支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コンビニ買い物に出かけるときやお祭りの時にお金を使えるようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎日電話で様子が知りたいという人がいるので、決まった時間にかかって来るので取り次いだり、電話をしたい時にはいつでも取り次いでいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節がわかりづらいので壁面飾りなどで季節を演出したり、日中も暖色系の明かりで寛ぎやすい環境を心がけている。	陽当たりの良い居間を中心に、和める雰囲気づくりに留意して、寛げる備品の配置や季節感に合わせた飾り付けをしている。また、温・湿度の管理や換気など健康に配慮した場所としている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアーが広いので気分に応じてそれぞれがいつでも居場所を変えられるように、工夫しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく本人が使用していたものを持ち込んでいただいています。趣味の雑誌を置く棚やテレビやビデオを見る椅子などを設置。居室内に便器を置いて自室で排泄が出来るようにしている。	家族の協力を得て、本人の日常に馴染みある備品や家具、家族関係の写真等を飾り、心身の状況に合わせた平安な生活環境づくりを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はすべてバリアフリーになっており、ベッドの位置、家具の位置なども個別に状況に応じて工夫しています。		